

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目 1-8		
自己評価作成日	2025.2.6	評価結果市町村受理日	2025.3.14

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々としたリビングフロアが特徴で庭には花植えや家庭菜園ができる畑があります。午前・午後に行う体操や制作活動を行う事で、入居者様同士のコミュニケーションや職員との信頼関係構築を大切にしています。散歩や外出レク、地域への買い物も行っており楽しみを持って生活して頂く事で利用者様が笑顔で過ごせる環境と健康維持に努めています。各居室には眠りスキャンセンサーを導入している事で、夜間睡眠状態のデータ管理し、睡眠時の身体状況を知る事でより良い睡眠に繋げております。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和7年2月19日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR拓北駅から徒歩圏内の閑静な住宅地に位置する2階建て2ユニットの事業所で、周辺には大小の公園や認定こども園、コンビニエンスストア、消防署出張所のある至便な環境にある。共有部個々の扉の色変えや誘導サインとなる文字・イラストを加えたユニバーサルデザイン設計で、3エリア(キッチン・リビング・ダイニング)にスペース分けした広く明るい開放的住空間である。開設7年目の現在、町内会加入により地域交流も徐々に進展しており、事業所夏祭りは総勢60名が集い、また、認知症サポーター養成研修やセミナーを運営推進会議で開催し出席者から好評を得ている。「眠りSCAN」を全居室ベッドへ導入し、睡眠・覚醒のリズムの可視化により個々の生活プラン改善につながっている。職員アイデアによるゲームや体操等に利用者が笑顔で生き生きと参加する姿がある。外食や調理レク、ネーミング豊かな食パーティーや、工場や動物園等の社会見学、買い物レクなど、食事・外出支援も優れている。初期対応の見極めや丁寧な現状把握により、高齢独居で生活困難であった方が食事もしっかり摂れ表情の改善やオシャレも楽しめるようになった利用者や、重度認知症であった方では適切な医療を受けられる支援により穏やかな生活が可能となった利用者もいる。職員は利用者の不安な気持ちを和らげたいにそった対応に努めたいと述べている。理念に則った支援に尽力する、地域密着型サービスエキスパート的存在の一つの事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に留まりやすい所に理念が掲示されている事で意識、実践しやすい環境にある。 管理者と職員は日々の中で実践できているか意識を共有している。	管理者と職員は地域密着型サービスの意義や役割を理解し、事業所理念に則り、運営や支援に臨んでいる。「人と地域に寄り添い開かれた事業所」としての意識を共有し、理念の体現に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している事で地域との繋がりを意識し事業所の存在を知って頂ける機会がある。 理念にある開かれた事業所としても地域の一員となれる様、少しずつだが交流を行っている。	地元の商業施設や名所、外食・外出レクリエーション等の支援を通じ、地域社会とつながり当たり前の暮らしの継続がなされている。町内会加入により、回覧板での情報共有や資源回収の協力、次年度は利用者と一緒に清掃活動に参加する予定もあり、交流の進展が窺える。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ発信する機会は持っていないが、運営推進会議で認知症サポーター研修を実施した際、地域に済むご家族様に参加頂き好評を頂いた事で、今後は地域へ向けての研修・学習会を実施し認知症への理解を深めていける様に努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では運営状況の報告を行い、町内会や包括センターの方々の参加もあり、施設外からの声や情報を直接聞ける機会になっている。施設の状況や活動を報告し意見をいただく事でサービス向上できる様、努めている。	会議では、行事や日常の様子等のスライドショーを開催し分かりやすくサービス状況を伝えている。地域包括支援センターの協力で認知症サポーター養成講座・フォローアップ研修の実施や法人社員による車椅子セミナーや杖の使用を学ぶ機会なども会議に加え、参加者から好評を得ている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月の入居状況報告や、運営上の不明点や介護保険の問い合わせ等でアドバイスを頂いている。	行政の各担当部署とは、電話で意見を仰いだり、メールでの情報連携や各種提出を行い、令和6年の指定更新申請では直接、担当窓口に出向き不明点の指導も得て適正な運営の維持に努めている。地域包括支援センターとも運営推進会議を通じ連携している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する研修や勉強会を実施する事で、日頃から身体拘束に繋がらないか職員間で常に意識している。 知識を身に着け具体的な行為が無いケアを行っている。	身体拘束等の適正化に関する指針を定め、定期に委員会を開催している。身体拘束はしておらず、委員会では基本原則についての資料を元に理解を深める取り組み状況であるが、今後は事例検討を再開する事としている。これらに係る年2回の内部研修は「3ロックについて」「身体拘束のテスト」を実施した。玄関は防犯上の理由により24時間オートロックであるが利用者の行動を制限するものではない。	

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待・心理的虐待・性的虐待・介護放棄・経済的虐待を理解し、日頃から施設内で虐待が行われる事が無い様に、定期的な研修や勉強会で確認を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修を行っている。研修では成年後見人制度の勉強を行う機会があった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	安心して入居頂けるよう入居契約までに何度もすり合わせを行っている。契約後の改定があった場合は丁寧な説明を心がけ疑問点の解決を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より入居者様とのコミュニケーションをとり要望の把握を行っている。普段の様子からも意見をくみ取り努めている。ご家族様が面会に来られた際や電話等でお伝えし、ご家族様からの希望を可能な限り運営に反映できる様に心がけている。	利用者から出された意見反映の事例では、献立のリクエストや味付けに応えている。家族からの重度化していく中で家族として準備する事についての相談では、事業所での今後の対応や移行支援のあり方を説明している。これらは個人記録や支援経過記録に記載し、情報共有している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に個人面談を行い、意見の聞き取りを行っている。全体会議や支店会議で意見を発言、反映させる状況がある。	管理者は半年に1度及び必要時に個別面談を実施し、職員から意見等を聴取し働きやすい環境を整えている。毎月の全体会議では運営に係る情報共有や、各ユニットカンファレンスは全体会議後タイムリーに開催し、活発な意見交換がなされている。職員は各委員会に所属し業務を分掌している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により定期的な就業環境の改善があり、やりがいに繋げられる環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や外部研修に赴く機会があり、新しい知識を得る機会がある。また経験の浅い職員へは業務の中でその都度介助方法の助言やアドバイスを行い、入居者様ごとに異なる対応には根拠を説明し理解してもらえる様に心がけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所のグループホームとの連携がとられており、各グループホームで実施される運営推進会議や行事のお手伝いに出向く事で学べる事があり、職員同士が交流する機会がある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談での本人との会話や生活環境等から安心確保出来るよう努めている。 コミュニケーションを多く取り信頼関係構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を取り、要望や不安点の聞き取りを行っている。 思いを気軽に伝える事ができる関係性作りを大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	課題の優先順位を明確にし、サービスを提供できる様、努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員という立場は忘れず、日常生活において家事のお手伝い等を通じそれぞれが助け合える関係性を築ける様に心がけている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に生活のご様子や状態をお伝えする事で、離れていても身近に感じてもらえる様に配慮し、不足品や嗜好品の購入、通院の付き添いもご家族の協力を得ており、絆が切れない関係性の橋渡しを行っている。		
20	8	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が継続できる様外出や面会できる体制を取っている。 また電話や手紙の取次を行っている。	家族等の面会の際は、その都度面会場所の希望を確認し居室やフロアにて対応し、友人の訪問のある利用者もいる。電話や手紙の取り次ぎも適宜、行っている。家族と一緒に墓参や外食などの外出や一時帰宅、年末年始に外泊する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人ひとりの様子や状態を職員間で共有し、その都度変わる人間関係に配慮した座席の配置を考え、お互いに声をかけ合い良い影響を受けられる様心がけている。また余暇時間にフロアで過ごされる入居者様との会話やミニレクを行う事で入居者同士の交流が行える様に心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も近くに来た際は立ち寄って頂きたい事をお伝えし、困った事がある場合は電話での問い合わせの対応、解決を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活リズムや生活の中での楽しみ、性格等を把握できる様に努めている。またケアプランの更新時には改めて入居者様本人からの聞き取りやご家族様からの意向を踏まえ、その人らしい生活が送れる様に配慮を行っている。	直接、利用者本人から意向や希望の聞き取りや、表出が難しい利用者の場合は、日常生活の様子や家族からの情報も得て本人がどうかの視点を職員間で話し合い検討している。課題分析総括表は大変詳細であり、現状が可視化できるアセスメント記録である。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケース記録から生い立ちや家族構成、生活歴を把握・確認し、ご本人様やご家族様・入居前に利用されていたサービス等からも情報を得る事で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録や直接関わる時間の中から、入居者様ごとの個別の状態を把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで職員間で支援方法や関わり方等の確認作業を行っている。ご本人様やご家族様の意見を聞き取ったり必要な関係者と話しあいケアプランに反映させている。	毎月、全員分の利用者カンファレンスを実施し、モニタリングも毎月実施している。本人、家族の意向を踏まえ、タイミングによってはサービス担当者会議に家族が出席する場合もある。介護計画にはセルフケアの継続などの援助内容の記載もあり、自立支援の要旨も反映された暮らしの計画書となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにて個人記録を入力・各自で確認できる様にしている。日常的な記録と申し送り事項、受診記録やご家族との記録等を確認しながら支援経過にまとめ、普段のご様子が分かる様に心がけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日常で起こる状況に対応できる様に職員間の情報共有を密に行いながら、その場で対応可能な案を一人の職員ではなく複数の職員が関わる事で、柔軟に対応できる様に心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	音楽療法や理髪サービスの利用など、施設外から来訪される方との関わりを持つ機会を設けている。また外出で地域の施設を利用し外部の方と関わる事で、生活に潤いが持てる様に行事の計画を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様、ご家族様の希望を尊重し往診医やかかりつけ医を選定している。また往診医やかかりつけ医が来訪された際は日頃の状況をお伝えする事に努めている。	協力医療機関内科医による月1回の訪問診療と歯科医の訪問診療、歯科衛生士による口腔ケアが受けられる体制を整え、職員配置の看護師と職員との連携も図られている。これまでのかかりつけ医に継続受診している利用者もいる。他科受診は家族対応であるが診療情報記録を活用し情報共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	各職員が看護師との連携を図りながら、入居者様ごとの状況を共有している。内服薬や外用薬の相談、身体的な事や認知症に関わる症状などの相談やアドバイスをもらいながら支援が行える様に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院対応が発生した場合は地域医療連携室と密に連絡をとり面会可能な病院には直接来訪し相談員や医療担当者と情報のやりとりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では看取りを行う体制が整っていないが、重度化になった場合のあり方についてはご家族様と話す機会を持っている。	利用契約時に「重度化に関する指針」を説明し同意を得ている。現在、看取り支援は想定しておらず、食事摂取が難しい、医療行為が発生するなどの重度化した場合は医師の判断に基づき、家族等と話し合い今後の方針を取り決め、移行支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応方法のフローチャートをスタッフルームに掲示している。 急変時に落ち着いた行動できる様、定期的にすり合わせを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行っている。 水害の地域である為、ハザードマップや資料を用意している。地域に暮らすご家族様や近隣の事業所間で協力関係を得ている。	令和6年3月水害想定垂直避難訓練、6月消防設備会社の協力を得た日中想定地震・火災避難訓練、12月夜間想定火災避難訓練を其々実施している。災害備蓄品を確保し、自然災害発生時における業務継続計画(BCP)を整備している。	地域との協力体制の構築に力を注ぐ考えを示している。運営推進会議内でも協議を進め、連携が図られる事に期待したい。電気火災の原因の一つであるトラッキング現象予防のための対策にも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日頃よりその方に伝わりやすい言葉・声量・速さを考慮すると共に、性格やこれまでの職業・生活歴を理解し言葉かけを行える様に心がけている。	個々を尊重した言葉遣いに配慮し、プライドが傷つかなないようにしている。気になる言葉がけに気づいた時は管理者面談等で対応している。個人情報のあるものは利用者の目に触れないよう対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定がしやすい様に普段より選択し決定してもらえる様な声かけを心がけている。また安心して話す事ができるように日頃より声かけの際には言葉と声のトーンに配慮する様心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気持ちに寄り添えるよう日頃からの様子を把握する様に努めている。職員で状況を共有しその方のペースで過ごせる様に対応を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びを入居者様と一緒にいたり、髭剃りや化粧品の使用等の支援を行っている。 外出時には普段と違うおしゃれを楽しんで頂いている。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事やおやつ、盛り付け、手作りおやつと一緒に作るなど、その方の能力を活かす事ができるよう配慮を行っている。	日々の盛り付けや行事食と一緒に作るなど、利用者の参加は、個々の能力を活かす場となっている。食事の前には皆で「いただきます」を合唱している。ファミリーレストラン等での外食やおやつタイムは食の楽しみが増す機会となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、水分量を毎日記録として残し、トータルとして不足がない様に確認すると共に、その方の様子に応じて食事の形態や食器などを工夫する様に心がけている。また自分で食べる事ができるよう、声かけや一部介助、見守りなどを行いながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアと義歯洗浄を実施している。また訪問歯科の往診や歯科衛生士による口腔ケアを実施している入居者様には、普段のご様子をお伝えし口腔内の状態の確認等を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できる限りトイレでの排泄ができる様に、定時誘導や随時誘導を行いながら、その方の排泄間隔でトイレ誘導を行っている。またおむつ使用の方でもトイレを使用し排泄できる様、職員で声をかけながらトイレ誘導を行う時もある。	多くの利用者の排泄は自立しているが、1人ひとりの排泄能力に合わせ排泄用品(パッドやポータブルトイレ)の使用も検討しつつ、できるだけトイレで排泄できるよう声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならない様に水分摂取量の確認を行いながら、水分が不足しがちな入居者様には声かけや促しを行いながら、飲んでもらいやすいジュースなどをご家族様に協力してもらいながら水分摂取に努めている。また毎日の体操を行い、薬に頼らない排便ができる様工夫している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は基本的には決まっているが、体調や気分により臨機応変に入浴できる様、対応を行っている。入浴の際は満足してもらえる様な声かけや対応を行える様に心がけている。	入浴は基本週に2回、状況により臨機応変に対応している。浴槽の湯は1人ひとり入れ替え、足拭きマットも同様に変えている。入浴支援一連を1対1で対応しており、声かけや会話も弾み、また演歌などの音楽を流し、気持ちよくリラックスして入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の様子を確認しながら必要な場合は居室で静養してもらえるよう配慮を行っている。また夜間は眠りスキャンを使用しながら、睡眠状況を確認し排泄介助や体位交換を行うよう配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬情報を確認し居宅療養管理指導を受け、薬剤師に確認をしながら服薬に関する支援と相談が行えている。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活での食事の盛り付け、片付け、洗濯物たため、床掃除など、その方の出来る役割を行ってもらう事で生活に張り合いを持ってもらっている。また余暇時間に集まった方達でコーヒーを飲んだりゲームが出来る環境を提供できるように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な散歩が行える様に取り組んでいる。外出は社会見学や食事と出来る限り様々な場所に出かけられる様に計画を立てている。またご家族様と一緒に外出や外食に出かけられる機会がある。	日常的に戸外に出かけ、庭のベンチでの休憩や近くの遊歩道、近隣住宅の花壇を見ながら散歩している。利用者の希望を取り入れたイベント外出や買い物レクリエーションを行っている。夏季の散歩は、夕方涼しい時間帯に支援するなどの配慮もある。利用者の中には家族と一緒に外出する方もいる。	家族と一緒に外出以外に、事業所のイベントや外出レクリエーションに家族と一緒に参加し楽しみを共有する機会を検討しているので実現に期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の所持金は金庫でお預かりしているが、ご本人様のご希望があった際には使用できる様な支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの電話はその都度取り次いでいる。届いた手紙類は居室にていつでも見られる様に保管している。またご本人様から電話や手紙の希望があった際にはやり取り出来る様に配慮している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた生活ができる様に整理整頓を行いながら、季節に応じた制作物で季節感を感じられる様に支援を行っている。快適な室温と調光になるよう調整を行っている。	明るく広いリビングは、コーナー分けを行い他者との距離も保ち易い造りである。トイレ等の扉は分かりやすい表示や柔らかい色彩で落ち着く雰囲気がある。カーテンでの適宜の遮光や天井設置型の空気清浄機も備え付け、快適に過ごせる調整がされている。浴室にはシャワーキャリーのまま浴槽に浸かれる設備がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お好きな場所で過ごせる様に食事用の座席の他にテレビ前にソファ一席もあり、思い思いに使用できる様に工夫している。また入居者様同士の会話や交流が出来る様にその時の状況に応じた座席を考慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個人の居室は自由に飾ったり使い慣れていた物が配置されている環境にある。安全対策が必要な場合はご家族様・本人様と相談しながら過ごせる様、工夫を行っている。	介護用ベッド、クローゼット、ナースコールの備え付けがある。使い慣れた物や馴染みの物を持参し、家族の写真や手作りの物が飾られ過ごしやすいう工夫が見られる。身体状況に合わせて補助具(H型手すり)の活用もあり安全対策もされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共用部と居室には分かりやすい様に大きくイラストと文字が書かれている。認識しやすい色や印を取り入れる事で自立支援に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201574		
法人名	株式会社フロンティア		
事業所名	グループホームウェルスタイル拓北		
所在地	札幌市北区拓北8条3丁目 1-8		
自己評価作成日	2025.2.6	評価結果市町村受理日	2025.3.14

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigovsyoCd=0190201574-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和7年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々としたリビングフロアが特徴で庭には花植えや家庭菜園ができる畑があります。午前・午後に行う体操や制作活動を行う事で、入居者様同士のコミュニケーションや職員との信頼関係構築を大切にしています。散歩や外出レク、地域への買い物も行っており楽しみを持って生活して頂く事で利用者様が笑顔で過ごせる環境と健康維持に努めています。各居室には眠りスキャンセンサーを導入している事で、夜間睡眠状態のデータ管理し、睡眠時の身体状況を知る事でより良い睡眠に繋げております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員はつねに理念を意識実践する様心掛けている。 玄関先や各ユニットの目が届きやすい箇所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に近隣の喫茶店へ食事へ行ったり散歩時に挨拶を交わすなどして地域に溶け込めるよう心がけている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ向けての研修・学習会を実施し認知症への理解を深めていける様に努めていきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様に参加頂く事で、取り組み状況を実際に見て頂き、率直な意見を聞く機会がありサービスに繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	護保険課にメールや電話での問い合わせを行い、現状を伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会から研修を定期的に行っており身体拘束の無いケアを行っている。日頃のケアが身体拘束にならないかの確認を管理者と職員ですり合わせを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修を重ね、虐待防止に取り組んでいる。他施設での事例報告等を全体会議時に行い、虐待防止への意識を高めている。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際の受け入れは無いが、成年後見制度の勉強を行う機会がある。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前見学の時点から運営についてのご説明やご家族様の疑問・不安点を聞き取りを行い、安心して契約できる様努めている。改定があった場合は余裕をもちご家族様に連絡を行い、不明点の問い合わせを受け付けている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会や面会時にご家族様、入居者様に参加頂き、意見を頂き反映させている。また日常の中で意見を引き出せる様な声掛けを行っている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議やカンファレンスで意見を募ったり定期的な個人面談を行い反映させている。上層部に意見を報告できる環境がある。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課をもとに定期的に改善が行われている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に参加し、理解を深めている。個々のスキルを見極め実際の現場での対応がスキルアップできる様、行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同事業所のグループホームとの交流の機会と意見交換の機会がある。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	その方の生活歴や習慣を把握し、安心して暮らせる環境と関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	こまめに連絡を入れ、ご本人様の様子を報告したりご家族様の要望や不安点の聞き取りを行い信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	優先順位を本人と家族に確認し支援を行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自立支援日々の役割を持った生活をして頂く事で一方的な関係性にならない様な関係に努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に制限はなく、家族との絆を大切にしている。疎遠になっている場合は、本人様の状況を電話でお伝えし、共に考えて頂ける様な関係性を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が訪ねてきた場合は、これまでの関係性を思い出すきっかけを橋渡ししながら支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しない様、職員が介入し、いろいろな話題を提供し、孤立しない支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後も必要な情報を提供している。 困りごとがあった場合や 近くに来た際は立ち寄りて頂きたい事を声をかけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	心穏やかに過ごして頂ける様、コミュニケーションを計り意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を生かせる様、 ご本人やご家族様に聞き取りを行い、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の過ごし方や心身状況を把握し、 本人の自己決定の元、1日を過ごせるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	どのような支援をするか、関係者に伝え、 より良いケアができる様、計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の重要性や、情報共有の重要性を 伝え、実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族、職員からの情報をもとに その時に合わせたサービスを行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣への買い物や外出レクを行いながら 生活の楽しみが持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医を継続・変更・往診への切り替え等、本人・家族の希望にで選択できる体制と支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	タブレットでの申し送り機能用紙を活用し個々の利用者の様子を見ている。 看護職員に報告相談し、すぐに受診に繋がられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が発生した場合は地域医療連携室と密に連絡をとったり病院に直接来訪し、本人様の様子や観察や医療担当者と情報のやりとりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現時点では看取りを行う体制が整っていない為、医療機関に繋がっているが、重度化や終末期に向けた話し合いを行う環境がある。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応時のフローチャートを作成している。 定期的な訓練、初動対応の実践力が身に着くような研修を頻回に行っていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を行っている。 地域の理解が少なく協力体制は構築できていないが、今後は、力を注いでいきたい。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーへの配慮が必要な場合は場所を変えたりしながら人格尊重に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら表す事ができない方には選択ができる様な声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に利用者対応を優先とする意識を職員間で持ち業務等に偏らない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を一緒に選んだり、外出時にはお化粧品やマニキュアをしたり普段とは違うおしゃれを楽しむ事ができる様支援している。		

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	味噌汁作りや食事の盛付を一緒に行っている。手作りおやつでは利用者に助けてもらう場面も多く一緒に活動を行っている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取表の活用や個人に合わせた食事量や形態を見極め支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自立・介助にて口腔ケアを行い、義歯洗浄を行っている。利用者により訪問歯科の定期往診を受け口腔内のチェックを行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、利用者のほとんどがトイレでの排泄が出来る様な支援している。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分の促しや、毎日の運動で便秘にならない様取り組んでいる。個人の希望により定期で乳製品を摂取したりしている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、一人一人お湯を入れ替え気持ち良く入浴できる環境を作っている。体調や気持ちを汲み取り、曜日や時間を変更し柔軟に対応している。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立の方は自分のペースでの静養を行えている。本人の状況を見て静養の声掛けを行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認したり薬局指導の元、副作用、症状や用量の変化を理解・確認できる環境にある。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の残存能力を見極め、役割をもった生活を送る事ができる様支援している。			

グループホーム ウェルスタイル拓北

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を感じて頂ける様に散歩や外出レク、地域への買い物を積極的に行っている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金はGH金庫にて保管預かりしているが訪問販売等が来訪した場合は本人の希望により希望品の購入ができる様支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	施設の電話を使用し知人・家族との会話や手紙・年賀状などのやり取りが出来る。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るくカーテンを開けたり認識しやすい色やマークで自立した生活が送れるよう工夫している。 フロアには空気清浄機器2台を設置し、快適に過ごせるよう配慮している。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・カウンター・テーブル・EVホール等、一人になれる空間の工夫をしている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた物や本人が使いやすい物を設置したり家族とともに考え安全に配慮しながら心地よい生活ができる工夫をおこなっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ドアの表札を大きく目立つ様にしたり導線を大きく取る事で自立した安全な生活が送れるよう環境整備を行っている。			